

## 特別研修

### 月例研究会 議事録 ( 11 月 )

2009 年度第 7 回

<b>報告題名</b> 農業分野における市民のボランティア参加の可能性 - 宮城県仙台市の農業サポーター事業を事例に -	
<b>報告者</b> 渡邊みどり (所属分野) 農業経営経済学分野	<b>日時</b> 11月26日 15時から17時 <b>場所</b> 第8講義室
<b>座長</b> 柳瀬	<b>議事録担当者</b> 神浦
<b>出席者</b> 安江、米倉、川島、工藤、伊藤、齋藤、澁谷、水澤、小山田、韓、デッフィ、松井、ステン、ソ、八木、柳瀬、宮本、カルナ、マヌルン、安部、神浦、佐々木、福田、水木、宮里、渡邊、北脇、遠藤、月僧、齊藤、中村、山下	
<b>報告要旨</b> 近年、農業への関心の高まりやボランティアなど社会的活動への活発化などから、農作業を手伝うボランティア(以下、援農ボランティア)に対する注目が高まっている。 援農ボランティアとは、定年退職者・会社員・主婦などの非農業者が、農作業を無償または低額の有償で手伝うものであり、1990年代から首都圏を中心に広がりを見せている。また援農ボランティアは農業労働力のひとつとして有効であることや、また、ボランティアが農村地域に入ることによって地域の活性化など二次的効果も現れていることから、今後さらに需要が高まることが予想される。 しかし、これまで行われてきた研究では、援農ボランティアを労働力のひとつとして研究がなされており、援農ボランティア参加者の意向を調べたものはなかった。 本研究の対象地である仙台市では平成14年度より援農ボランティア育成事業を行っており、その修了生である援農ボランティアの数はこれまでに約130人(平成20年度)にのぼっている。そこで、仙台市の援農ボランティア参加者の意向調査を行なうことで、農業分野で非農業者の参加者が望むような『ボランティア』を行なうことはできるのか、できるとすればどのようなモデルが考えられるのかを明らかにしたい。 今回の報告では、せんだいの援農ボランティア事業(農業サポーター事業)の概要と、11月に行なったアンケート調査の結果の概要について報告する。	

## 質疑・応答

**澁谷**： 仙台より前から援助ボランティアが行われている名古屋での状況はどうか。特に保険について古屋で事例があれば、それを参考にすればよいのではないか。

**渡邊**： 名古屋の事例については詳しく調べていない。保険について、無償ボランティア向けの保険、NPO事業として行われている場合の保険が各県の社会福祉協議会で運営されている。それらは有償ボランティアの場合は適用されない。現状では、必要だと思った人が自ら民間の保険に加入する事例が多いと思われる。農業では鎌や草刈機を使った危険な作業を伴うので、援農ボランティア向けの保険が必要であると考えられる。

**八木**： 援農ボランティアの参加者が報酬として実費以上の額を貰うと、公的にはボランティアでなく仕事と見なされるとあるが、ボランティアであることの意義は何か。

**渡邊**： 援農ボランティアが行われる背景として、市民が農業を体験してみたい、農業に貢献したいという気持ちに応えるために設立されたということがある。また、援農ボランティアが仕事と見なされると農家と参加者の間で公的な雇用関係を結ばなければならなくなる。しかし、ボランティアと仕事の線引きが曖昧であるとトラブルがあった場合不都合であるので、線引きはきちんとするべきだと思う。

**米倉**： 研究テーマである援農ボランティアは、日本の農業、社会にどのような影響があると考えているか。

**渡邊**： 農業に労働者としてではなくボランティアとして参加することで、農家と消費者の交流の場として機能すると考えられる。しかし、労働者として援農ボランティアに参加している場合もあるので、仕事とボランティアの線引きをはっきりとすべきだと思う。

**米倉**： 援農ボランティアは今後発展するべきか。

**渡邊**： 実際に参加している方々は、農業にボランティアとして関わることで農業に対する理解や貢献などを実感している。援農ボランティアの制度を発展させることで、多くの消費者の農業に対する思いを具体化させていくことができると考えられる。

**安江**： 援農ボランティアを受け入れることで、農家の所得に影響が出るのか。

**渡邊**： 既存研究の中で援農ボランティアを受け入れることで農家所得が向上したという事例が報告されている。特に、都市近郊の農産物直売経営を行っている場合、援農ボランティアによる柔軟な労働力が所得向上や経営発展に繋がっている。

**安江**： この研究と既存研究との違いは何か。

**渡邊**： 既存研究は、援農ボランティアに対して主に農家と制度を運営する地方公共団体に焦点を当てている。一方この研究は、参加しているボランティアに焦点を当てて、参加者についての課題やニーズを明らかにするものである。

**宮本**： 発表の中で用いられた「サポーター」という単語は、ボランティアにも仕事にも明確に属さない援農ボランティアを行う人のことを指しているのか。

**渡邊**： はっきりとは言えない。最初はボランティアとして援農ボランティアに参加した人も、農家のサポートを行っているうちに仕事を強く意識することもあり、参加者を区別すること自体はかなり難しいと思われる。

**澁谷**： 援農ボランティアが、ボランティアと仕事の区別のつかない曖昧なものであるからうまくいくのではないか。もし援農ボランティアに関する明確な制度が作られてしまうとうまくいかなくなるのではないかと思う。

**柳瀬**： 仙台のサポーターで活動している人数とその増減どうなっているのか。

**渡邊**： 大体、1期から3期に登録したサポーターの半数が病気・体力的な側面から登録を取り消している。実際に活動している方は把握できていない。

**宮本**： 資料の中で仙台のサポーター全体の男女比があるが、年代別の男女比があれば面白いと思う。

**渡邊**： 現在所持しているデータには年代別の男女比は無い。今後検討する。